令和６年度 大館市立南中学校 学校報
ＮＯ．２５　令和６年１１月１５日発行　担当：教頭

小石台

【学校教育目標】「 なりたい自分を求め、自ら考え判断し、行動する生徒の育成 」
《めざす生徒像》 ◇すなおに　◇ただしく　◇はつらつと　◇たくましく

１１月１３日（水）指定訪問がありました！

「2024チャレンジ５５＋」報告集会

今年度３回目となる指定訪問は「総合的な学習の時間」で、「チャレンジ５　５　＋（ゴーゴープラス）」の報告集会をお客様にご覧いただきました。例年通り各班から活動報告、成果と課題、次年度への提案を発表したあと、今年は地域アドバイザーの方々を交え、各班で『南学区を元気にするために、今私たちにどんなことができるのだろう？』というテーマで“なんしゃべ風”の話合いを行いました。そして全校生徒による“直耕タイム”でそのテーマを深め、最後は参加してくださった３名のアドバイザーから感想や助言をいただきました。あっという間の６０分でした。

レジェンド班

『安藤昌益リーフレット』の作成と、二井田保育所での『ハチ公紙芝居』の読み聞かせ

〇地域の期待に応えられた。
〇幅広い年代に配慮した表現で作成できた。
〇地域の一員としての自覚をもつことができた。
▲リーフレットの内容は小学生には難しいかも。
▲自分たちの知識が不足していた。

未来キッズ班

二井田保育所で『歯磨き指導』、手作りグッズを使用した『野球遊び』での交流

〇少子高齢化の深刻さを理解した。
〇園児に喜んでもらえた。
〇新たな取組が受け入れられた。
▲園児数の減少とどう向き合うか。
▲遊具の工夫が必要→園児と一緒に道具作りをしてはどうか。

安らぎふるさと班

南ガーデンの協力による介護セミナー受講と入所者との交流、地域の高齢者宅への訪問交流

二井田公民館、麓西分館はじめ地域の方の協力で、二井田地区の危険個所現地視察後に防災マップ作成

〇人との関わりの大切さを理解できた。
〇地域の情報を得るよい機会だった。
〇災害時の対処法も学ぶことができた。
▲高齢者には個別の配慮が必要である。
▲マップの情報量が不十分だった。
▲マップを更にユニバーサルデザイン化した方がよい。

レジェンド班による「安藤昌益リーフレット」　安らぎふるさと班による「二井田地区防災マップ」を、今年度の大館市「ふるさとキャリア作品コンクール」へ出品します。

大地の恵み班

富樫りんご園の協力により育てたりんごを南中祭で販売
小畑農園の協力により枝豆を再利用した肥料作りに挑戦

〇りんご販売で地域を笑顔にできた。
〇ＳＤＧ's に貢献できた。
▲農業の後継者不足。
▲困難な作業が多い。

参観したお客様からは
・先生方から与えられるのではなく、生徒が自分たちの思いを大切にした活動を行う『主体的な学び』である。
・１年間だけでなく、年度をまたいで連続して発展している『ＰＤＣＡサイクルを生かした活動』である。
・４分間という限られた時間を有効に使って伝えたいことをしっかり伝えるための、情報の再整理や工夫やがなされていた。
・ＩＣＴを有効活用して、出された考えや思いをすぐに全員が見て分かるように共有することで、『協働的な学習や対話的な学習』がしやすくなっていた。

など、生徒の取組や頑張りを高く評価していただきました。

地域アドバイザーを交えた班ごとの話合い → 全校での「直耕タイム」へ

各班の話合いも、全校での直耕タイムも、一人一人が「自分事」として地域の様子を捉え、「どのようにしていくべきか」「自分（たち）に何ができるか」を必死に考えました。これまでの活動の仕方について疑問を投げかけたり、勇気を出して本音を発したり、新聞記事から考えさせられたことを訴えたりと、きれいごとや表面的ではない意見を述べる姿に、本校職員も胸を打たれました。生徒たちは、３名の地域アドバイザーからいただいたお話に、真剣なまなざしで聞き入っており、その一つ一つの言葉を深くかみしめているようでした。

最後の、前生徒会長・富樫心春さんのあいさつが非常に心に残る素晴らしいものだったので“これはぜひ学校報で全文紹介させてもらおう”と思い集会直後に３年生の教室へ行きました。すると、なんと、３年生たちは教室に戻ってもまだ、地域のために何ができるのか、何がしたいのかを、本気で話していました。そして「もっと言いたいことがあったのに！！」「ぜんぜん時間が足りないですよ！！」「絶対また話合いしましょう！！」と口々訴えてきたのです。

集会の時も、あと４か月で卒業する３年生が、しかも「チャレンジ５５＋」の活動にはもう参加することのない３年生が、しっかり「自分事」としてこれからのことを考え、話合いをリードし、たくさんの発言をしていることに驚いていたのですが、この教室での様子を見て、心から感動しました。

心春さんから借りたあいさつの原稿は事前に用意されたものではなく、集会の間に、アドバイザーの方のお話や全校生徒の発言の中からポイントとなるワードを拾ってメモし、自分の思いや伝えたいことを書き加えて、話す順番を考えて矢印を付け、２本線で消して言葉を変えるなど推敲してある、手書きのメモ用紙４枚でした。その全文を右に紹介します。

地域アドバイザーの皆さんからの感想、助言、講評など

住民運動会の時は、南中生が準備や運営を手伝ってくれ、選手としても参加してくれて、感謝・感激。新しいことをしなくても、今ある活動やイベントを盛り上げるためにはどうしたらよいかを考えて、企画段階から中学生が入ってくれればうれしい。今日はこんなに地域のことを考えてくれて、本当に感謝・感激。

二井田公民館長　松田 誠行 さん

町内会長になっても、町内の人を全員知っているわけではない。祖父母世代はわかるが、皆さんの両親世代になるとわからない。皆さんは、自分にとっても孫のような存在。地域の活動に「〇〇の孫です」と名乗って来てくれれば、スッと入ってこられると思う。各町内会長さんたちをきっかけにして、自己アピールしながら地域に入ってきてほしい。　中台町内会長　柳谷 広志 さん

板沢の祭典に小袴の生徒も参加してくれたこと、地区運動会には南中生が総出で来てくれたこと、地区文化祭では吹奏楽部が生演奏をしてくれたこと、地域の皆さんが涙を流して喜んでいた。感謝。しかしこれからは地域の行事の在り方を見直していかなければならない。ぜひ南中生にも力を貸してほしい。周囲に目を配りながら、お互いに協力してやっていきたい。

真中公民館長　五十嵐 芳子 さん

南中は今年で創立６０周年を迎えています。南中、そして南学区の姿は年々変化し続けていると感じます。よい変化もある中で、少子高齢化が進み、地域の方とのつながりや活動の継続が難しくなっているのも、今の現状です。

そんな状況の中で、私たちができることは何か。今日の直耕タイムでは「日常的なあいさや町内会活動の活性化、人との関わり方の工夫や私たち自らが地域を知る必要がある」など、様々な視点からの考えが出されました。少子高齢化問題などについて、地域の方と意見交流を行うなどして、私たちが問題について考える必要がある、という意見も出されました。

この「チャレンジ５５＋」という活動は、南中学校と地域の皆さんをつなぐ、大きなかけ橋となっています。南学区全体の人数が減り続けいている今、「チャレンジ５５＋」を通して、学校と地域のつながりを更に深める必要があるのではないでしょうか。そのためには、地域の皆さんの声にもっと耳を傾けて、地域の姿の変化に適応していく必要があり、「チャレンジ５５＋」は見直しの時期を迎えていると言わなければなりません。今後の取り組みについては、今日、直耕タイムで出された、地域活性化に向けての意見をもとに、先生方との協議を行ってから提案することになります。

（全校の皆さん、立ってください）

アドバイザーの皆さん、私たちは、これからも地域をよりよくするにはどうしたらよいか、皆さんと悩み、考え、実行し、地域一体となって活動を行っていきます。今日の話合いは、地域の発展への第一歩となりました。本日は、「チャレンジ５５＋報告集会」に参加してくださり本当にありがとうございました。

放課後の研究会では、お客様から「ずっと継続されてきたチャレンジ５５＋の活動と、南中参観、南中しゃべり場などの活動の、すべてがつながって今日の生徒の姿に結び付いていた。今日、地域アドバイザーの方々が語ったことは、地域の生の声である。それによって生徒がより真剣に考え、次への課題をもつきっかけとなったはず」という指導助言をいただきました。来週の月・火は、学習委員会のたっての希望により、２回目の南中参観を行う予定です。他学年からの評価で自分たちの成長を実感し、また他学年の学びの様子から次の成長を目指す、そんな南中生の姿を期待します。